

## 安全データシート（SDS）

### 1. 化学品及び会社情報

製品名	補修用塗料キット A98L-0040-0374#W-1（主剤）
供給者の情報	
会社名	ファナック株式会社
住所	〒401-0597 山梨県南都留郡忍野村忍草3580
電話番号	0120-240-613
ファックス番号	0120-240-673
お問合せ先	<a href="https://www.fanuc.co.jp/ja/contact/form/index.html">https://www.fanuc.co.jp/ja/contact/form/index.html</a>
推奨用途	工業用

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 物理化学的危険性

引火性液体 区分3

##### 健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性 区分2

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

区分2

発がん性 区分1B

生殖毒性 区分1A

生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響

追加区分

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

区分2

（肝臓、中枢神経系、呼吸器、腎臓）

区分3

（気道刺激性、麻酔作用）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

区分1

（呼吸器）

区分2

（聴覚器、神経系）

##### 環境に対する有害性

水生環境有害性（短期（急性））

区分2

水生環境有害性（長期（慢性））

区分2

#### GHSラベル要素

##### 絵表示又はシンボル



##### 注意喚起語

危険

##### 危険有害性情報

H226 引火性液体及び蒸気  
H315 皮膚刺激  
H319 強い眼刺激  
H350 発がんのおそれ  
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
H362 授乳中の子に害を及ぼすおそれ  
H371 臓器の障害のおそれ  
H336 眠気又はめまいのおそれ  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害  
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ  
H401 水生生物に毒性  
H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

安全対策

- P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
- P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- P263 妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。
- P273 環境への放出を避けること。
- P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- P233 容器を密閉しておくこと。
- P240 容器を接地しアースをとること。
- P241 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／その他機器を使用すること。
- P242 火花を発生させない工具を使用すること。
- P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
- P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- P261 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
- P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- P264 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- P280 保護手袋を着用すること。
- P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- P280 保護眼鏡／保護面を着用すること。
- P280 指定された個人用保護具を使用すること。
- P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

- P370+P378 火災の場合：指定された消火剤を使用すること。
- P391 漏出物を回収すること。
- P321 特別な処置が必要である。
- P314 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
- P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
- P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- P308+P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- P302+P352 皮膚に付着した場合：多量の水／適切な薬剤で洗うこと。
- P303+P361+P353 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
- P332+P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
- P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。

貯蔵

- P403 換気の良い場所で保管すること。

廃棄

- P501 内容物／容器を地方／国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
キシレン（異性体混合物）	1330-20-7	5-10	3-3、3-60
エチルベンゼン	100-41-4	5-10	3-28、3-60
酢酸ブチル	123-86-4	10-15	2-731
プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート	108-65-6	5-10	2-3144
低沸点芳香族溶剤ナフサ	64742-95-6	0.1-1	9-1691、9-1698 9-1700、9-2578
スチレン	100-42-5	0.1-1	3-4
高沸点芳香族ナフサ	64742-94-5	1-5	9-1691、9-1700 9-1702
トルエン	108-88-3	0.1-1	3-2、3-60
二酸化チタン	13463-67-7	30-35	1-558
硫酸バリウム、C.I. ピグメントホワイト21	7727-43-7	0.1-1	1-89
トリメチルベンゼン	25551-13-7	0.1-1	3-7、3-3427
1,2,4-トリメチルベンゼン	95-63-6	0.1-1	3-7、3-3427
ナフタレン	91-20-3	0.1-1	4-311

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。  
 この組成の特定の化学物質アイデンティティ及び／又は正確な含有量（濃度）は、営業秘密として非開示としています。

危険有害成分

労働安全衛生法

第57条（名称等を表示すべき有害物）該当成分

キシレン（異性体混合物）、エチルベンゼン、酢酸ブチル、低沸点芳香族ソルベントナフサ、高沸点芳香族ナフサ  
トルエン、二酸化チタン  
プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート（令和8年4月1日施行）

第57条の2（名称等を通知すべき有害物）該当成分

キシレン（異性体混合物）、エチルベンゼン、酢酸ブチル、低沸点芳香族ソルベントナフサ、スチレン  
高沸点芳香族ナフサ、トルエン、二酸化チタン、ナフタレン  
プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート（令和8年4月1日施行）

化学物質排出把握管理促進法

第一種指定化学物質 該当成分

キシレン（異性体混合物）、エチルベンゼン

---

4. 応急措置

---

一般的な措置

気分が悪いときは、医師に連絡すること。医師の診察／手当てを受けること。  
ばく露又はばく露の懸念がある場合は、医師に連絡すること。医師の診察／手当てを受けること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。  
水又はシャワーで洗うこと。多量の水／適切な薬剤で洗うこと。  
皮膚刺激が生じた場合は、医師の診察／手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼の刺激が続く場合は、医師の診察／手当てを受けること。

医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。

---

5. 火災時の措置

---

適切な消火剤

火災の場合は泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

使ってはならない消火剤

水を使用してはならない。

特有の消火方法

危険を避けられれば燃焼源の供給を止める。

---

6. 漏出時の措置

---

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

適切な保護具を着用する。  
着火源を取除くとともに換気を行う。  
風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。  
下水、排水中に流してはならない。  
河川等に流出した場合は、管轄機関に連絡をする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。  
多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。  
回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。  
着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

---

取扱い

技術的対策

取扱者のばく露防止

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

火災・爆発の防止

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
容器を接地しアースをとること。  
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／その他機器を使用すること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する措置を講ずること。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。  
指定された個人用保護具を使用すること。

接触回避

データなし

衛生対策  
 妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。  
 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。  
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管  
 安全な保管条件  
 安全な容器包装材料  
 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。施錠して保管すること。  
 データなし

8. ばく露防止及び保護措置

成分名	管理濃度 (ppm)	許容濃度	ACGIH特記事項
キシレン (異性体混合物)	<=50 作業環境評価基準 (2004)	50ppm,217mg/m <sup>3</sup> ,日本産衛学会(2001) TWA : 20ppm(眼及び上気道刺激、 血液学的影響、聴覚毒性、中枢神経系障害) ACGIH(2021)	聴力障害
エチルベンゼン	<=20 作業環境評価基準 (2012)	20ppm,87mg/m <sup>3</sup> (経皮) 日本産衛学会(2020) TWA : 20ppm(上気道及び眼刺激、 聴覚毒性、腎臓影響、中枢神経系障害) ACGIH(2021)	聴力障害
酢酸ブチル	<=150 作業環境評価基準 (2012)	100ppm,475mg/m <sup>3</sup> ,日本産衛学会(1994) TWA : 50ppm,STEL : 150ppm (眼及び上気道刺激),ACGIH(2016)	-
スチレン	<=20 作業環境評価基準 (2004)	20ppm,85mg/m <sup>3</sup> (経皮) 日本産衛学会(1999) TWA : 10ppm,STEL : 20ppm (中枢神経系及び聴覚障害、上気道刺激、 末梢神経障害、視覚障害),ACGIH(2020)	聴力障害
トルエン	<=20 作業環境評価基準 (2009)	50ppm,188mg/m <sup>3</sup> (経皮) 日本産衛学会(2013) TWA : 20ppm(中枢神経系、視覚障害、 聴覚障害、女性生殖器系影響、妊娠損失) ACGIH(2020)	聴力障害
二酸化チタン	-	(吸入性粉塵)1mg/m <sup>3</sup> , (総粉塵)4mg/m <sup>3</sup> 日本産衛学会(第2種粉塵) TWA : 2.5mg/m <sup>3</sup> (R)(下気道刺激、 じん肺症),ACGIH(2021)	-
硫酸バリウム、 C.I. ピグメントホワイト21	-	TWA : 5mg/m <sup>3</sup> (I,E)(じん肺症) ACGIH(2014)	-
トリメチルベンゼン	-	TWA : 10ppm(中枢神経系障害、 血液学的影響),ACGIH(2021)	-
1,2,4-トリメチルベンゼン	-	25ppm,120mg/m <sup>3</sup> ,日本産衛学会(1984) TWA : 10ppm(中枢神経系障害、 血液学的影響),ACGIH(2021)	-
ナフタレン	<=10 作業環境評価基準 (2015)	TWA : 10ppm(上気道刺激、白内障、 溶血性貧血),ACGIH(2014)	皮膚吸収

設備対策  
 保護具  
 呼吸器用の保護具  
 手の保護具  
 眼、顔面の保護具  
 皮膚及び身体の保護具  
 排気／換気設備を設ける。  
 呼吸用の保護具を着用する。  
 保護手袋を着用する。  
 保護眼鏡／顔面の保護具を着用する。  
 保護衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	白色
臭い	溶剤臭
臭いの閾値	データなし
融点/凝固点（℃）	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲（℃）	77-146
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	
爆発限界－下限（容量%）	0.9
爆発限界－上限（容量%）	11.0
引火点（℃）	23
自然発火点（℃）	272
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率（mm <sup>2</sup> /s）	データなし
溶解度（水）	データなし
溶解度（溶媒）	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧（Pa）	データなし
密度及び/又は相対密度（g/cm <sup>3</sup> ）	1.24
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。
避けるべき条件	熱/火花/裸火/高温などの着火源から遠ざけること。 7. 取扱い及び保管上の注意を参照すること。
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	炭素酸化物、窒素酸化物

## 11. 有害性情報

急性毒性（経口）	
製品	データ不足のため、分類できない。
成分データ	
日本公表根拠データ	キシレン(異性体混合物) rat LD50=3500-8800mg/kg (NITE有害性評価書, 2008)
	エチルベンゼン rat LD50=3500-4700mg/kg (AICIS IMAP, 2020)
	スチレン rat LD50=2650mg/kg (MOE初期評価第13巻, 2015)
	二酸化チタン rat LD50>5000mg/kg (SIDS, 2015)
	1,2,4-トリメチルベンゼン female rat LD50=3280mg/kg (REACH登録情報, Accessed Aug. 2021)
	ナフタレン rat LD50=490-1800mg/kg (PATTY 5th, 2001)
急性毒性（経皮）	
製品	データ不足のため、分類できない。
成分データ	
日本公表根拠データ	キシレン(異性体混合物) rabbit LD50=1700mg/kg (EPA Pesticide, 2005)
	エチルベンゼン rabbit LD50=15400mg/kg (ACGIH, 2011)
	高沸点芳香族ナフサ rat LD50=4100mg/kg (EHC 20, 1982)
	二酸化チタン hamster LD50>10000mg/kg (HSDB, Access on May 2016)
急性毒性（吸入）	
製品	データ不足のため、分類できない。
成分データ	
日本公表根拠データ	キシレン(異性体混合物) vapor: rat LC50=6350-6700ppm/4hr (NITE有害性評価書, 2008)
	エチルベンゼン vapor: rat LC50=4000ppm/4hr (産衛学会許容濃度の暫定値の提案理由書, 2020)
	mist: rat LC50=55mg/L/2hr (換算値: 27.5mg/L/4hr) (MOE 初期評価, 2015)
	スチレン vapor: rat LC50=2770ppm/4hr (ACGIH 7th, 2020)
	<飽和蒸気圧濃度(8422ppm)の90%
	トルエン vapor: rat LC50=3319-8800ppm/4hr (EU-RAR, 2003) et al.
	二酸化チタン dust: rat LC50>5.09mg/L (SIDS, 2015)
	1,2,4-トリメチルベンゼン mist: rat LC50=18000mg/m <sup>3</sup> /4hr (18mg/L/4hr) (MOE 初期評価, 2009)
労働基準法：疾病化学物質	キシレン（異性体混合物）、酢酸ブチル、スチレン、トルエン

皮膚腐食性／刺激性

製品 区分2、皮膚刺激  
 成分データ

日本公表根拠データ  
 キシレン(異性体混合物) ラビット 紅斑、浮腫、壊死 (NITE有害性評価書, 2008)  
 スチレン 刺激性 (MOE初期評価第13巻, 2015; HSDB, Access on August 2020) et al.  
 高沸点芳香族ナフサ ヒト/ラビット 中等度の刺激性 (EHC 20, 1982 et al)  
 トルエン ラビット 中等度の刺激性 (EU-RAR, 2003)  
 トリメチルベンゼン 動物 一次刺激性 (ACGIH 7th, 2001)  
 1,2,4-トリメチルベンゼン 皮膚刺激性 (MOE 初期評価, 2009)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

製品 区分2、強い眼刺激  
 成分データ

日本公表根拠データ  
 キシレン(異性体混合物) ラビット 軽度から中等度の刺激性 (NITE有害性評価書, 2008)  
 エチルベンゼン ラビット 軽度の刺激 (NITE初期リスク評価書, 2007 et al)  
 酢酸ブチル ラビット 48時間後に回復 (SIDS, 2009)  
 プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート  
 ラビット 軽度から中等度の刺激性 (SIDS, 2003)  
 スチレン 刺激性 (MOE初期評価第13巻, 2015) et al.  
 高沸点芳香族ナフサ ラビット 中等度の刺激性 (EHC 20, 1982)  
 トルエン ラビット 軽度の刺激性 (EU-RAR, 2003)  
 トリメチルベンゼン 眼刺激性 (HSDB, 2014)  
 1,2,4-トリメチルベンゼン 眼刺激性 (MOE 初期評価, 2009)  
 ナフタレン ラビット 7日以内に回復 (ATSDR, 2003)

呼吸器感作性

製品 データ不足のため、分類できない。  
 成分データ データなし

皮膚感作性

製品 データ不足のため、分類できない。  
 成分データ

日本公表根拠データ  
 ナフタレン cat.1; human:DFGOT vol.11, 1998

生殖細胞変異原性

製品 データ不足のため、分類できない。  
 成分データ データなし

発がん性

製品 区分1B、発がんのおそれ  
 成分データ

日本公表根拠データ  
 エチルベンゼン cat.2; IARC Gr.2B (IARC, 2000 et al.)  
 スチレン cat.1B; IARC Gr.2A (IARC 121, 2019)  
 二酸化チタン cat.2; IARC Gr.2B (IARC 93, 2010 et al.)  
 ナフタレン cat.2; IARC Gr.2B (IARC 82, 2002)

IARC  
 キシレン(異性体混合物) Group 3: ヒトに対する発がん性については分類できない  
 エチルベンゼン Group 2B: ヒトに対して発がん性があるかもしれない  
 スチレン Group 2A: ヒトに対しておそらく発がん性がある  
 トルエン Group 3: ヒトに対する発がん性については分類できない  
 二酸化チタン Group 2B: ヒトに対して発がん性があるかもしれない  
 ナフタレン Group 2B: ヒトに対して発がん性があるかもしれない

ACGIH  
 キシレン(異性体混合物) A4(2021): ヒト発がん性因子として分類できない  
 エチルベンゼン A3(2021): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明  
 スチレン A3(2020): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明  
 トルエン A4(2020): ヒト発がん性因子として分類できない  
 二酸化チタン A3(as Finescale particles)(2021): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

1,2,4-トリメチルベンゼン A4(2021): ヒト発がん性因子として分類できない  
 ナフタレン A3(2014): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

日本産衛学会  
 エチルベンゼン 第2群B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質  
 スチレン 第2群B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質  
 二酸化チタン 第2群B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質  
 ナフタレン 第2群B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

EU  
 低沸点芳香族ソルベントナフサ  
 Category 1B; ヒトに対しておそらく発がん性がある物質  
 ナフタレン Category 2; ヒトに対する発がん性が疑われる物質

生殖毒性

製品 区分1A、生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
 追加区分、授乳中の子に害を及ぼすおそれ

成分データ

日本公表根拠データ  
 キシレン(異性体混合物) cat.1B; ATSDR, 2007  
 エチルベンゼン cat.1B; 産衛学会許容濃度等の勧告, 2021; ACGIH 7th, 2011 et al.  
 スチレン cat.1B; 産衛学会許容濃度の提案理由, 2015 et al.  
 トルエン cat.add; SIDS(J), Access on Apr. 2012  
 cat.1A; NITE初期リスク評価書 87, 2006

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

製品 区分2、臓器の障害のおそれ  
 区分3、眠気又はめまいのおそれ

成分データ

区分1  
 日本公表根拠データ  
 キシレン(異性体混合物) 肝臓、中枢神経系、呼吸器、腎臓 (NITE有害性評価書, 2008)

区分3（気道刺激性）

日本公表根拠データ  
 エチルベンゼン 気道刺激性 (ACGIH, 2011; AICIS IMAP, 2020)  
 酢酸ブチル 気道刺激性 (CICAD 64 2005)  
 プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート  
 気道刺激性 (SIDS, 2008)  
 スチレン 気道刺激性 (MOE初期評価第13巻, 2015)  
 高沸点芳香族ナフサ 気道刺激性 (PATTY 5th, 2001)  
 トルエン 気道刺激性 (PATTY 5th, 2001)  
 トリメチルベンゼン 気道刺激性 (HSDB, 2014)  
 1,2,4-トリメチルベンゼン 気道刺激性 (ACGIH, 2001)

区分3（麻酔作用）

日本公表根拠データ  
 キシレン(異性体混合物) 麻酔作用 (NITE有害性評価書, 2008)  
 エチルベンゼン 麻酔作用 (ACGIH, 2011)  
 酢酸ブチル 麻酔作用 (CICAD 64 2005)  
 プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート  
 麻酔作用 (SIDS, 2008)  
 スチレン 麻酔作用 (MOE初期評価第13巻, 2015)  
 高沸点芳香族ナフサ 麻酔作用 (PATTY 5th, 2001)  
 トルエン 麻酔作用 (EHC 52, 1985; IARC 47, 1989)  
 トリメチルベンゼン 麻酔作用 (ACGIH 7th, 2001)  
 1,2,4-トリメチルベンゼン 麻酔作用 (US AEGL, 2012 et al.)

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

製品 区分1、長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害  
 区分2、長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

成分データ

区分1  
 日本公表根拠データ  
 キシレン(異性体混合物) 神経系、呼吸器 (NITE有害性評価書, 2008)  
 エチルベンゼン 聴覚器、神経系 (産衛学会許容濃度の提案理由書, 2020)  
 二酸化チタン 呼吸器 (SIDS, 2015)

誤えん有害性

製品 データ不足のため、分類できない。

成分データ

区分1  
 日本公表根拠データ  
 キシレン(異性体混合物) cat.1; kinematic viscosity=0.86(o-), 0.67(m-), 0.70(p-)mm<sup>2</sup>/s (25°C)  
 (HSDB, 2014)  
 エチルベンゼン cat.1; hydrocarbon, kinematic viscosity=0.63mm<sup>2</sup>/s (40°C)  
 (CLH Report, 2010)  
 スチレン cat.1; hydrocarbon, kinematic viscosity=0.772mm<sup>2</sup>/s (25°C)  
 トルエン cat.1; hydrocarbon, kinematic viscosity=0.86mm<sup>2</sup>/s (40°C)  
 トリメチルベンゼン cat.1; hydrocarbon, kinematic viscosity<8.9mm<sup>2</sup>/s  
 (1,3,5-trimethylbenzene)  
 1,2,4-トリメチルベンゼン cat.1; hydrocarbon, kinematic viscosity=0.843mm<sup>2</sup>/s (20°C),  
 0.630mm<sup>2</sup>/s (50°C) (本物質の異性体である1,3,5-トリメチルベンゼン)  
 (GESTIS, 2021)

12. 環境影響情報

水生環境有害性（短期（急性））

製品	区分2、水生生物に毒性
製品データ	データなし
成分データ	
日本公表根拠データ	キシレン(異性体混合物) 魚類 (ニジマス) LC50=3.3mg/L/96hr (NITE 初期リスク評価書, 2005)
	エチルベンゼン 甲殻類 (バイシュリンブ) LC50=0.42mg/L/96hr (NITE初期リスク評価書, 2007)
	酢酸ブチル 魚類 (ファットヘッドミノー) LC50=18mg/L/96hr (CICAD 64, 2005)
	プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート 藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) ErC50>1000mg/L/72hr; 甲殻類 (オオミジンコ) EC50=370mg/L/48hr; 魚類 (メダカ) LC50>100mg/L/96hr (環境省生態影響試験, 1997)
	スチレン 藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) EC50=0.72mg/L/96hr (環境省リスク評価第13巻, 2015)
	高沸点芳香族ナフサ 甲殻類 (オオミジンコ) EC50=0.95mg/L/48hr (IUCLID, 2000)
	トルエン 甲殻類 (Ceriodaphnia dubia) EC50=3.78mg/L/48hr (NITE初期リスク評価書, 2006)
	二酸化チタン 甲殻類 (オオミジンコ) EL50>100mg/L/48hr (SIDS, 2015)
	硫酸バリウム、C.I. ピグメントホワイト21 甲殻類 (オオミジンコ) EC50=32mg/L/48hr (CICADs, 2001)
	トリメチルベンゼン 甲殻類 (グラスシュリンブ) LC50=5.4mg/L/96hr (Aquire, 2003)
	1,2,4-トリメチルベンゼン 魚類 (ファットヘッドミノー) LC50=7.72mg/L/96hr (優先評価化学物質のリスク評価, 2015)
	ナフタレン 魚類 (ニジマス) LC50=0.77mg/L/96hr (EHC 202, 1998)

水生環境有害性（長期（慢性））

製品	区分2、長期継続的影響によって水生生物に毒性
製品データ	データなし
成分データ	
日本公表根拠データ	エチルベンゼン 甲殻類 (ネコゼミジンコ) NOEC=0.956mg/L/7days (環境省リスク評価第13巻, 2015)
	スチレン 藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) NOEC=0.063mg/L/96hr (環境省リスク評価第13巻, 2015)
	トルエン 甲殻類 (Ceriodaphnia dubia) NOEC=0.74mg/L/7days (NITE初期リスク評価書, 2006)

水溶解度

成分データ	
	エチルベンゼン 0.015g/100ml (20℃) (ICSC, 2007)
	酢酸ブチル 0.7g/100ml (20℃) (ICSC, 2003)
	プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート 19.8g/100ml (ICSC, 1997)
	スチレン 0.03g/100ml (20℃) (ICSC, 2006)
	トルエン 溶けない (ICSC, 2002)
	二酸化チタン 溶けない (ICSC, 2002)
	硫酸バリウム、C.I. ピグメントホワイト21 溶けない (ICSC, 1999)
	トリメチルベンゼン 非常に溶けにくい (ICSC, 2002)
	1,2,4-トリメチルベンゼン 非常に溶けにくい (ICSC, 2002)
	ナフタレン 溶けない (ICSC, 2005)

残留性・分解性

成分データ	
	キシレン(異性体混合物) 急速分解性なし (BODによる分解度: 39% (NITE 初期リスク評価書, 2005))
	エチルベンゼン 急速分解性なし (良分解性; 標準法におけるBODによる分解度: 0% (通産省公報, 1990))
	酢酸ブチル 急速分解性あり (BODによる分解度: 98%, SIDS, 2009)
	スチレン 急速分解性あり (BOD分解度: 100%/14days; GC分解度: 100%/14days (通産省公報, 1979))
	トルエン BODによる分解度: 123% (既存点検)
	トリメチルベンゼン 1,3,5-トリメチルベンゼンのBODによる分解度: 0% (既存点検)
	1,2,4-トリメチルベンゼン 急速分解性なし (BODによる28日間分解度: 平均8.7% (METI既存点検結果, 1980))
	ナフタレン BODによる分解度: 2% (既存点検)



生体蓄積性	
成分データ	キシレン(異性体混合物) log Pow=3.16 (PHYSPROP DB, 2005) エチルベンゼン log Kow=3.15 (PHYSPROP DB, 2005) 酢酸ブチル log Pow=1.78 (PHYSPROP DB, 2009) スチレン log Kow=2.95 (PHYSPROP DB, 2009) トルエン log Kow=2.73 (PHYSPROP DB, 2008) トリメチルベンゼン log Pow=3.4 through 3.8 (ICSC, 2002) BCF=328 (1,3,5-トリメチルベンゼン: 既存化学物質安全性点検データ) 1,2,4-トリメチルベンゼン log Pow=3.8 (ICSC, 2002) ナフタレン log Pow=3.3 (ICSC, 2005); BCF=168 (Check & Review, Japan)
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

---

1 3. 廃棄上の注意

---

廃棄物の処理方法	環境への放出を避けること。 内容物／容器を地方／国の規則に従って廃棄すること。
----------	--

---

1 4. 輸送上の注意

---

国連番号、国連分類	
国連番号またはID番号	1263
正式輸送名	塗料又は塗料関連物質
分類または区分	3
容器等級	III
指針番号	128
特別規定番号	163、223、367
IMDG Code (国際海上危険物規程)	
国連番号またはID番号	1263
正式輸送名	塗料又は塗料関連物質
分類または区分	3
容器等級	III
特別規定番号	163、223、367、955
IATA (航空危険物規則書)	
国連番号またはID番号	1263
正式輸送名	塗料又は塗料関連物質
分類または区分	3
危険性ラベル	Flamm.liquid
容器等級	III
特別規定番号	A3、A72、A192
環境有害性	
海洋汚染物質	該当
特別の安全対策	データなし
MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	
有害液体物質 (X類)	トリメチルベンゼン、1,2,4-トリメチルベンゼン、ナフタレン
有害液体物質 (Y類)	キシレン (異性体混合物)、エチルベンゼン、酢酸ブチル、スチレン、トルエン
有害液体物質 (Z類)	プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート、二酸化チタン
MARPOL条約付属書V-HME (海洋環境に有害)	
発がん性：区分1、1A、1B 該当物質	スチレン
生殖毒性：区分1、1A、1B 該当物質	キシレン (異性体混合物)、エチルベンゼン、スチレン、トルエン
特定標的臓器毒性、反復ばく露：区分1 該当物質	キシレン (異性体混合物)、エチルベンゼン、二酸化チタン
水生環境有害性 短期 (急性)：区分1 該当物質	エチルベンゼン、高沸点芳香族ナフサ
水生環境有害性 長期 (慢性)：区分1、2 該当物質	キシレン (異性体混合物)、エチルベンゼン、高沸点芳香族ナフサ
国内規制がある場合の規制情報	
船舶安全法	引火性液体類 分類3
航空法	引火性液体 分類3

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物取締法に該当しない。		
労働安全衛生法			
特定化学物質障害予防規則	第2類 特別有機溶剤等		
	エチルベンゼン		
	スチレン		
有機則 第2種有機溶剤等	キシレン（異性体混合物）		
	酢酸ブチル		
	トルエン		
粉じん障害防止規則（令19号）	二酸化チタン		
第57条（名称等を表示すべき有害物）	キシレン（異性体混合物）	別表第9の136	
	エチルベンゼン	別表第9の70	
	酢酸ブチル	別表第9の181	
	低沸点芳香族溶剤ナフサ	別表第9の330	
	高沸点芳香族ナフサ	別表第9の330	
	トルエン	別表第9の407	
	二酸化チタン	別表第9の191	
	プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート	別表第9、令和8年4月1日施行	
第57条の2（名称等を通知すべき有害物）	キシレン（異性体混合物）	別表第9の136	
	エチルベンゼン	別表第9の70	
	酢酸ブチル	別表第9の181	
	低沸点芳香族溶剤ナフサ	別表第9の330	
	スチレン	別表第9の323	
	高沸点芳香族ナフサ	別表第9の330	
	トルエン	別表第9の407	
	二酸化チタン	別表第9の191	
	ナフタレン	別表第9の408	
	プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート	別表第9、令和8年4月1日施行	
別表第1 危険物（第1条、第6条、第9条の3関係）	危険物・引火性の物（0℃≦引火点<30℃）		
健康障害防止指針公表物質（法第28条第3項）	エチルベンゼン		
化学物質排出把握管理促進法			
第一種指定化学物質	エチルベンゼン	8.4%	
	キシレン	8.4%	
消防法	危険物 第四類引火性液体 第二石油類	危険等級III（指定数量1,000L）	
化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律			
優先評価化学物質	トルエン	通し番号46	人健康影響／生態影響
	スチレン	通し番号47	人健康影響／生態影響
	1,2,4-トリメチルベンゼン	通し番号49	人健康影響／生態影響
	トリメチルベンゼン	通し番号49	人健康影響／生態影響
	エチルベンゼン	通し番号50	人健康影響／生態影響
	ナフタレン	通し番号76	人健康影響／生態影響
	キシレン（異性体混合物）	通し番号125	人健康影響
	1,3,5-トリメチルベンゼン	通し番号201	人健康影響
じん肺法	二酸化チタン		
悪臭防止法	キシレン（異性体混合物）	政令番号18	敷地境界線許容限度：1-5ppm
	スチレン	政令番号17	敷地境界線許容限度：0.4-2ppm
	トルエン	政令番号16	敷地境界線許容限度：10-60ppm
大気汚染防止法			
有害大気汚染物質	キシレン（異性体混合物）	中環審第9次答申の43	
	エチルベンゼン	中環審第9次答申の24	
	スチレン	中環審第9次答申の111	
	ナフタレン	中環審第9次答申の144	
有害大気汚染物質／優先取組	トルエン	中環審第9次答申の141	
水質汚濁防止法			
指定物質	キシレン（異性体混合物）	法令番号28	
	スチレン	法令番号27	
	トルエン	法令番号25	

---

## 16. その他の情報

---

### 参考文献等

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN  
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN  
IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)  
IATA 航空危険物規則書 第62版 (2021年)  
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)  
2022 TLVs and BEIs. (ACGIH)  
JIS Z 7252: 2019  
JIS Z 7253: 2019  
2021 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)  
厚生労働省 基安化発0111第1号 (令和4年1月11日)  
Supplier's data/information

---

### 免責

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂されることがあります。  
また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。  
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和3年度 (2021年度))です。